

## 地域福祉計画の基本理念

認めあい、つながりあい、支えあうまち 東村山

### 認めあう

- ・交流することにより、お互いに理解をしあう。  
それにより一人一人を尊重していくことができる。

### つながりあう

- ・お互いにつながっていくことにより、いきがい（人と人との交流や環境との共生）をもった暮らしや、地域福祉が推進されていく。

### 支えあう

- ・お互いに支え合いながら、住み慣れた地域の中で生活していく。  
行政だけではなく、住民、当事者が参加することで、福祉の担い手となる。

---

次の考え方に基づき、基本理念を作成しました。

この内容は素案であり、今後内容を精査していきます。

### <考え方（素案）>

少子高齢化が加速し、後期高齢者の割合が増加することにより、これまでの福祉施策で支え続けることができるのか。そういった中、理想論ではなく現実的な方法で支え合いの地域社会を形成していく必要がでてくる。

近年の無縁社会という言葉にあるように、地域のつながりが薄れてきている現状がある。それにより、隣近所での助け合いや地域で行っていく子育てといったような支え合いの地域をつくる以前に、お互いにつながるためのきっかけを持つことが難しくなっている。また、住民自体に「社会貢献をする」という発想が育まれていないという状況もある。

地域福祉とは「児童、高齢、障害」といった限られた人だけを対象とするわけではなく、地域に暮らすすべての人が支え合い、いきがいをもって生活していくためのもの。自身だけではなく、様々な個性、あり方をしている人同士が、お互いを認め合い、お互いの立場を尊重し、受け入れていくことが、地域における参画の推進や、人権の尊重につながっていく。東村山市民全体として、これまでの生活の在り方を見直し、お互いに連帯して支え合っていく意識づくりが必要となってくる。

また、経済の悪化に伴う共働きの増加や保育所の待機児の増加、高齢者や障害者に関する課題が多様化していく中、行政施策だけではなく、協働を進めることでの対応方法を探っていくことも必要となる。「自分さえよければいい」ということではなく、それぞれの問題をお互いが自身の問題として理解し合い、行政だけではなく、住民、当事者が参加し、担い手になるという地域福祉の推進を進めていく必要がある。

住民の健康意識については、小さいころからの食育、特定健診や介護予防事業の推進等により増進が図られている。一方、高齢化の加速や、若い世代の自殺等の問題も生じている。健康増進は地域コミュニティの推進や、医療費、介護保険料の適正化の面からも重要であり、社会の多様化、少子高齢化が進む中、今後ますます重要となってくる。また、高齢社会における、認知症、疾病等による寝たきり等の問題については、就労やボランティア等、いきがいを持った生活を送ることや、地域での生活を医療、介護の面から支えていくようなしくみなど、いきがいを持っていていきいきと暮らせるまちにしてい

以上